

休眠預金未来構想プラットフォーム 第5回全体会合 議事概要

日時	2017年11月17日(金) 13:00~15:00
場所	ベルサール飯田橋駅前
参加者	<p>(敬称略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有馬充美 (みずほ銀行) ・今田克司 (CSO ネットワーク) ・鶴尾雅隆 (日本ファンドレイジング協会) ・岸本幸子 (パブリックリソース財団) ・木村真樹 (あいちコミュニティ財団) ・加藤剛 (公益財団法人 トヨタ財団) ・喜田亮子 (公益財団法人 トヨタ財団) ・駒崎弘樹 (フローレンス) ・柴崎順也 (公益法人協会広報・渉外・出版担当/コンテンツマネージャー) ・白井智子 (トイ・ボックス) ・関口 宏聡 (シーズ) ・鶴見和雄 (公益法人協会) ・新田英理子 (日本 NPO センター) ・松田典子 (日本ファンドレイジング協会) ・山中礼二 (一般財団法人 KIBOW) ・鷺澤なつみ (公益財団法人 トヨタ財団) ・水谷衣里 (日本ファンドレイジング協会)
アジェンダ	<p>(1) 休眠預金等活用審議会の進捗状況の共有</p> <p>(2) 分科会での意見交換内容の共有</p> <p>(3) 中間とりまとめと調査 AG 提言書に基づくディスカッション</p>

1. 決定事項

- “評価”に関する議論について
 - ・ 評価分科会にて引き続き議論。
 - ・ プラットフォームに共有しつつ、必要な提案のとりまとめを進め、委員を通じて審議会に提案を行う。
- 今後の検討について
 - 次年度以降の展開を見据え、分科会とは別に有志による検討チームを置き、活用のあり方についてより具体的な意見交換を進める
- 次回日程について
 - ・ 1月頃を想定。共同事務局から日程調整をメンバーに対しメールにて依頼する。

2. 議事内容

(1) 休眠預金等活用審議会の進捗状況の共有

1) 内容の共有

- ・ 休眠預金等活用審議会の進捗状況について、内閣府の公表資料に基づき共有を行った。

- ・ 特に中間とりまとめ、調査アドバイザーグループからの提言書、今後のスケジュールについて、公表資料を基に解説が行われた。

2) 意見交換（得られた意見）

- ・ 休眠預金等活用審議会について、中間とりまとめ、調査アドバイザーグループからの提言書ともに、未来構想プラットフォームの要望との大きなずれはないと感じる。
- ・ 特にエコシステムという言葉が入ったことは、本 PF の大きな方向性との一致がみられ、歓迎すべきだと言える。

(2) 分科会での意見交換内容の共有

1) 評価分科会について

- 評価分科会リーダーである今田氏から、分科会での議論が共有された。
- ・ 「資料4 資金の活用の成果に係る評価に関する基本的考え方について」の内容について、評価分科会では意見交換を行った。
- ・ 本ペーパーは、内閣府が作成したものだと考えられる。
- ・ 評価コストに対する考え方については、議論のポイントになり得る。本ペーパーでは「暫定的に休眠預金から出す」という書きぶりになっているが、評価コストは本来、資金提供者が負担すべきものではないか。
- ・ 評価コストを下げるために、指定活用団体が評価システムを実装すべきという記述になっている点が気になっている。
- ・ 内閣府は、共通の指標を休眠預金の費用を活用してシステム化していくという、壮大なイメージを持っている可能性がある。
- ・ 資料では、ID の導入や、指定活用団体のナレッジセンターの役割に関する記述がある。これらは実際に海外の流れとしてはあるもの。
- ・ 事業単位だけではなく、コレクティブ・インパクトやアカデミアとの共同などセクター単位で、評価を実施する必要があるのではないかという意見も注目すべき。
- ・ 今後、評価分科会で意見をとりまとめ、委員を通じて審議会に提案をできないか検討していく。

(3) 中間とりまとめと調査 AG 提言書に基づくディスカッション

中間とりまとめと調査アドバイザーグループからの提言書に基づき、グループに分かれてワークショップ形式で意見交換を行った。意見交換のテーマは

1. 中間とりまとめと調査 AG 提言書を踏まえて気になっている点の共有
2. 休眠預金の具体的な活用イメージ
の2点とした。

意見交換によって得られた意見は以下の通り。

【中間とりまとめと調査 AG 提言書を踏まえて気になっている点の共有】

※カッコ内は問いに対して未来構想 PF メンバーから出された所見

- 休眠預金によって、だれが恩恵を受けるのか。
(対象範囲は広いのではないか。)
- 評価人材をどう育成するか
- 対象となる現場団体の幅ほどの程度か
(法人格は問わないのではないか。まずは仕組みや機能、役割を名確認する必要があるのではないか。)
(休眠預金活用の性格がはっきりすれば自ずと明らかになるのではないか。)
(どのよな評価にせよ、現場団体の側に仮説は必須ではないか。)
(成果を評価するというと、限られた団体しか対象とならないように感じたが、仮説であっても評価はできるという話を聞き、思ったより対象が広がった。
(個人的には、誰でも対象になるのではなく、ある程度のしほりがあるのではないかと考えている。淘汰や選択はあるのではないか。)
- 情報格差や誤解など、意識差をどう埋めていくのか
- 民業圧迫につながらないか
- モニタリング人材はいるのか
- 指定活用団体の姿は？誰が準備するのか？
- 革新性の中身は
- 伴走支援が効果的にできるか？そもそも人材はいるのか？
- 資金分配団体はいるのか。全国カバーできるのか
- 評価が難しい分野にどう資金を流すのか
(アドボカシー団体など、対象に含まれるはずであるが、何かしらの説明が必要になるのではないか。)
- 融資・出資はどのように制度設計するのか
- CAO の制度設計の足りない部分をどう埋めるのか
- 評価に関する誤解（ワーディングや概念など）を解くべきでは
- 会計基準上どう扱うのか

【休眠預金の具体的な活用イメージ】

- 研究者と現場との協働
- 伴走者の育成（金融機関も含む）、評価人材、目利き人材の育成
- 評価がはっきり可能なもの（ex. SIB など）
- 金融機関の力を活かすこと
- ストックに使えないか（ファンドの組成など）
- Patient capital 的な長期的な資金の使い方
- アイディアから事業化のフェーズに進めるためのサポート
- アイディアの評価をどのようにするのか
- スケールアウトの支援
- コレクティブ・インパクト系、コンソーシアム型のスタート期のサポート
- 政策提言へのサポート

その他、以下の意見も得られた。

- ポートフォリオを決めるべきではないか
- 人材育成・キャパビル・評価×助成・融資・投資のミックスを決めるべきではないか」。

また、以上の意見交換を踏まえて、次年度以降の展開を見据え、分科会とは別に有志による検討チームを置き、活用のあり方についてより具体的な意見交換を進めることが共同事務局から提案・了承された。

3. 次回日程

- ・ 第6回全体会合について、当初予定通り2か月後を目途に開催することを確認した。

以上